

民報 ゆうばり

1市4町の会「憲法記念日トラックキャラバン」

第90回メーデー集会・後援会「さくらまつり」開催



立憲野党と市民団体による1市4町の会「憲法記念日」3年目のアピール行動

5月3日、晴天の中、の憲法記念日行動として3年目になる、1市4町の会「憲法記念日」トラックキャラバンアピールが行われました。南幌Aコープ前10時皮切りに、長沼役場前、由仁駅前、昼食休憩をはさんで栗山ラツキー前、最後に15時40分から夕張メーロード前でGブラザーズ&シスターズの演奏と共に、各代表のスピーチです。

立憲民主党を代表して、栗山町議の千葉清己さん、社民党空知代表の青木やすひろさん、共産党からはくまがい桂子夕張市議が「安倍政権を倒し、憲法を活かす政治にするために、参議院選挙で力を合わせよう」と訴えました。また、市民団体を代表して、『明日の平和をつくり出す夕張の会』の渡辺輝夫共同代表が、憲法記念日に在日外国人の人權を保障しようと訴え、共感をよんでいました。

第90回メーデー夕張集会開催



5月1日午後1時半より第90回メーデー夕張集会が共生ファーム（旧第1小学校）で開催されました。

集会では実行委員会を代表して労連議長の筒井勇治さんが「2.26事件で10年間禁止された。それが無ければ100回目に当たる」とメーデーの歴史に触れて挨拶をしました。メッセージ紹介では共産党の紙智子参院議員と畠山和也前衆院議員、新夕張市長の厚谷司さんなど集会開催をお祝いし激励の言葉が寄せられました。

集会の学習・懇談として4月21日に4期目の当選を果たした、くまがい桂子市議が「国民健康保険料値上げ反対」と題して講演しました。

4年前強行可決された法制度の問題点を分かりやすく整理し、パソコンを使ってスクリーンに映像を示しながら、安倍政権のウソとごまかしのポイントを解説しました。

参加者から「分かりやすくこれからの運動に役だてたい」と感想が出されました。

南空知日本共産党後援会「さくらまつり」開催



5月12日栗山公園において、党後援会主催の「さくらまつり」が開催され125名が参加しました。

最初に、道議選に立起し選挙戦をたたかった、重山まさよ前栗山町議の挨拶につづき、1市4町の会などでも共闘し、来賓として参加した、立憲民主党の千葉清己栗山町議から吉岡建二郎両予定候補

今年選挙戦を勝ち抜いた藪田享長沼町議、大竹登由仁町議、くまがい桂子夕張市議、新熊木恵子南幌町議、上田久司岩見沢市議（山田康弘岩見沢市議・只野勝利三笠市議は所用のため欠席）ら各議員のスピーチの後、6月に行われる美唄市議選に向けて、吉岡文子・吉岡建二郎両予定候補



ユウパリコザクラの会創立30周年記念 「夕張岳の未来を考える」 夕張岳シンポジウム2019

5月11日ユウパリコザクラの会は、創立30周年記念講演会を開催しました。

会場は清水沢研修センター大会議室で、はじめに、この記念講演会のオープニングコーラス「コール・ポピー」(指揮：滝口洋子さん)の演奏がありました。

曲目は、「ユウパリコザクラ」花の夕張岳♪ナキウサギ♪本当の♪ふるさとをつくる♪の4曲でした。これらは夕張岳を守る活動の応援歌として、会が発足した1989年(平成元年)に作られた合唱組曲4曲で作詞・関山昭子、作曲・大西進の作品です。第1部で30周年記念誌が夕張市へ藤井代表から今教育長へ手渡されました。



オープニングコーラス
コール・ポピーのみなさん

第2部で「未来の夕張岳を考える」をテーマにしたシンポジウムに入りました。コーディネーターは長谷川雄助(ユウパリコザクラの会、日本山岳会北海道支部)シンポジストは佐藤謙(北海道環境生活部生誉教授ほか)、坂村武(北海道環境生活部生物多様性保全課)、藤井純一(コザクラ代表)、秋元和之(同パトロー

ル部長)阿部博子(同自然観察員)でした。



くずさんの 夕張歴史散歩(111)

明治維新27／朝鮮植民地支配 ⑪

朝鮮への残酷な干渉

すでにみたように朝鮮を舞台に繰り広げられた日清戦争は、その前段から人間性を無視した残酷な行為で展開されました。日清戦争の口火となった朝鮮王宮占領・国王拉致事件・旅順大虐殺事件・そして第2次東学農民戦争における皆殺し作戦と枚挙に暇ありません。これで終わったのか？

下関条約と三国干渉

一万三千余名の死傷者を出し日清戦争を終えた明治政府は、一八九五年(明治28)四月十七日、講和条約(下関条約)を締結し、台湾と遼東半島を割譲させます。しかし一週間後の四月二十三日、いわゆる三国干渉が行われ、遼東半島を返還します。これは、ロシアやフランスなどの帝国主義的野望と日本の植民地支配・拡張との矛盾の表れでした。

王妃の寝室に乱入

このとき時の軍部と明治政府は、とんでもない事を起こします。一八九五年(明治28)十月八日の深夜、朝鮮駐在の日本公使三浦梧楼(元陸軍中将・大使にあたる)および壮士*1らは日本軍人、警察官と共に、王宮奥深く国王高宗の妃(閔妃)の寝室にまで乱入し、泣き叫ぶ無抵抗の官女を切り殺していきます。

狙いは大院君(国王の高宗の父)*2がクーデターを起こしたと見せかけ、ロシアなどを通じていた閔妃を排除・殺害する事になりました。

- *1 明治政府の植民地政策により、その手先になって海外で非合法的な役割を担った右翼的浪人。
- *2 当時「閔妃」と大院君との間には、確執が伝えられていた。

前号の本文最後から2行目 痛墳を痛憤に 誤字訂正



紙智子「国会かけある記」
参議院議員

紙智子

復興を応援する政治の責任を

5月1日のメーデー、3日の憲法記念日の集會に参加しました。

2日は、気になっていた北海道胆振東部地震の被災地であるむかわ町、安平町、厚真町の三町をはたやま和也参議院選挙区予定候補とともに訪ねました。

むかわ町は、昨年の地震直後に大きな打撃を受けて、倒壊していた建物も、かたづけや建て替えが進み、商店街も仮設店舗で再開するなど、日常を取り戻しつつあります。農協では、震災で破損した穀類や大豆の乾燥調整施設を応急措置で再開していますが、抜本的な対策が必要です。ちょうど春レタスの収穫の時期でした。毎朝4時半から満載のレタスをトラックが出荷貯蔵施設にどんどん運び込んでいます。しかし、10連休で市場に出荷できず、一時冷蔵保管しなければならぬというのです。そのために価格がひと箱1500円から1200円に落ちてしまふ。若い農家の担い手が増えているだけに、農協も、収入が落ちないように必死で支えようとしています。

地震と停電で、搾乳した生乳を5日間も廃棄せざるを得なかった安平町の酪農家も、山の崩壊によって家ごと土砂の下敷きになり、妻と子、親を失った厚真町の稲作農家の方も、絶望と悲しみを乗り越えて必死に生きる姿を目にしました。直面している課題、新たな課題に迅速に対応し、生活と生業、地域の再建を支援することが必要です。震災から8か月、人々の営み、地域の復興を応援する政治の責任を痛感しました。